

## 第5学年 社会科 Globalization and Glocalization through MacDonald

教育学研究科 科学文化教育学専攻 社会認識教育学専修 松原直哉

### 1 はじめに

大学院入学時、この体験型海外教育実地研究の話を耳にした。もともとアメリカの教育に関心があった私は、本研修への参加をすぐに決めた。なぜなら、日本でアメリカの教育に関する文献を読むことで、その教育理念や方法について学ぶことはできる。しかし、その理念や方法が実際の教育現場でどのように実現されているといった“教育の実際”を知ることは、日本でただ文献を読むだけでは分からない。そのため、私はこのアメリカの“教育の実際”を体験できる体験型海外教育実地研究への参加を決めたのである。

また、この体験型海外教育実地の魅力はアメリカの学校で授業をすることができるということだ。このような経験はなかなかすることができない貴重な経験であり、この経験は自分の資質の向上に寄与すると感じたため、このプログラムへの参加を強く希望したのである。

### 2 実地研究の日程と程度と概要

月日	Transportation	Activities	Lodging
5/10(火)	12:10-12:50 C526	渡航までの日程確認 パスポート確認 授業研究テーマの設定方法	ESTA・保険の確認
5/25(水)	18:00-19:00 C526	授業研究テーマ案の交流	
6/9(木)	13:30-14:30 C526	学習指導案の検討	
6/30(木)	13:30-14:30 C526	学習指導案の検討 渡航のための諸手続き	
7/9(土)	13:00-16:10 K102	第6回学校間交流国際フォーラム	
7/10(日)	9:30-11:00 C527	学習指導案の検討および教材・教具の作成 渡航の手続き	
7/29(金)	15:00- C526	渡航準備 保険説明	
9/3(土)	10:00- C526	書類提出 報告書作成および発表会の打ち合わせ 直前打ち合わせ	
9/12(月)	10:00- C526	直前打ち合わせ	
Sep 17(Sat)	Hiroshima 0745-0925 Narita (NH-3112) Narita 1105-1040 Washington Dulles (NH-2) Washington Dulles 1235-1340 Raleigh (NH-7144) RDU Airport →City Hotel & Bistro Transportation ; Dr.John Tucker is arranging vehicles and Drivers for us		City Hotel & Bistro 203 W.Greenville Blvd, Greenville, NC 27834 Tel:877-271-2616 Greenville
18(Sun)	Transportation ; Dr. Sandra Warren will arrange the transportation for us.	Preparation of Lessons Meeting with teachers of each school at	Greenville
19(Mon)	City Hotel → Each School Transportation ; Dr. Sandra	School Visit Elmhurst E.S. (K-5)	Greenville

	Warren will arrange the transportation for us	Observation	
20(Tue)	City Hotel → Each School Transportation ; Dr. Sandra Warren will arrange the transportation for us	Morning ; School Visit Observation / Teaching Afternoon ; Resource Center in ECU	Greenville
21(Wed)	City Hotel → St.Peter's Catholic School→Clarion State Capital Transportation; Dr.John Tucker is arranging vehicles and drivers for us	Morning ;School Visit St.Peter's Catholic School. Com/	Clarion State Capital 320 Hillsborough St. Raleigh, NC Tel ; 919-832-0501 Fax ; 919-833-1631
22(Thu)	Transportation ; On foot	School Visit Exploris M.S.(6-8) Museum Visit	Releigh
23(Fri)	Hotel → RDU ; Taxi Raleigh 1025-1130 Washington Dulles (NH-7145) Airport → Hotel ; Taxi	Traveling to Washington DC Study on the American Culture	Washington Plaza 10 Thomas Circle, N.W. Washington, DC 20005 Tel ; 202-842-1300 800-424-1140 Fax : 202-371-9602 Washington DC
24(Sat)	Transportation ; Subway	Study on the American Culture at Historical Place	Washington DC
25(Sun) 26'Mon)	Hotel → Airport ; Taxi Washington Dulles 1223-1515 Narita (NH-1) Narita 1630-1805 Hiroshima (NH-3111)		

### 3 実地研究授業

#### 3.1 単元名等

第4・5学年 社会科 “Think Globalization and Glocalization through MacDonald

#### 3.2 事前準備

海外の子どもたちに授業をする上で、さらに社会科としての授業及び教材を開発するにあたり、日本の文化的要素を通して何か教えられることはないかと考えた。それは、社会科として単に日本の伝統的文化を紹介するのではなく、そこから社会を分かるための何かを伝えられることはないか、と思ったためである。

そこで授業の教材として思いついたのが、私たちの身近にあり、今や世界有数のグローバル

企業となったマクドナルドを教材として、世界の文化の伝播・浸透過程において文化の「グローバル化」と「グローカル化」が起こっていること、さらにその土地独自の文化や宗教といったものに影響されて起こる文化の変容性について伝えられる授業づくりをしようと考えたのである。

しかし、小学校の高学年を対象とした授業づくりであるため、どのような学習活動をすれば子どもたちが文化の変容性について気づくことができるか、といった授業における学習活動が、私の授業づくりにおいて最大の課題であった。

そこで考えついたのが、アメリカと日本、さらにグローカル化の特色が色濃く出ているインドのマクドナルドのメニュー表を作って、それを子どもたちが比較してメニューの差異性に気づき、また、なぜメニューが異なっているのかを考えさせる学習活動である。

### 3.3 学習指導案

#### Lesson plan

**Lesson Title :** “Globalization and Glocalization through MacDonald”

**Lesson Author :** Naoya Mastubara

**Date :** September 2011

**Grade levels :** 4th/5th

**Subject :** Social studies

**Description :**

In this class, students will learn about “Globalization” and “Glocalization” of culture through MacDonald.

**Objectives :** As the result of the activity, students will be able to

1. Know how Japan and other countries receive American culture of MacDonald.
2. Learn about “Globalization” and “Glocalization” of culture.

**Materials, resources and Technology:**

MacDonald’s menu in America, Japan, Germany and India, the photograph of food

**Procedure**

Activity	Teacher’s activity	Materials
1. Anticipate how many MacDonald shops in America, Japan and the world.	1. Show the statistical table about the number of MacDonald shops.	Statistical table about the number of MacDonald
2. Think about American food culture in the world through MacDonald.	2. Tell today’s objective.	the materials about MacDonald’s menu of some countries
3. Discuss what country’s menu they are and Choose the country among America, Japan and India.	3. Hand out the materials about MacDonald’s menu of America, Japan and India.	Cards of MacDonald’s menu

<p>4. Compare the MacDonal’s menu of each country, and look for the menu MacDonal shops of other countries don’t sell.</p> <p>5. Write characteristics in drawing papers.</p> <p>6. Think about Japanese (food) culture changed into American (food) culture.</p> <p>7. Learn about “Globalization” and “Glocalization” of culture.</p>	<p>4. Hand out the materials about cards of MacDonal’s menu</p> <p>5. Hand out drawing papers and pens</p> <p>6. Ask a question about Japanese (food) culture changed into American (food) culture.</p> <p>7. Explain “Globalization” and “Glocalization” of culture.</p>	<p>Drawing papers</p>
---	---	-----------------------

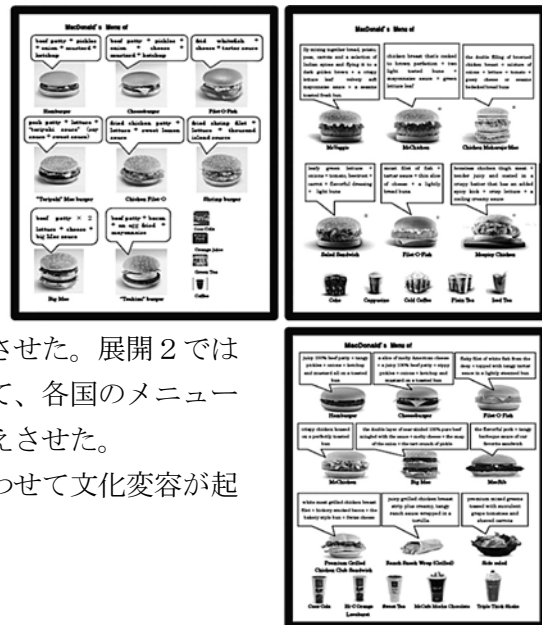
【使用したメニュー表と写真】

### 3.4 授業の実際

導入では、マクドナルドの店が世界にどのくらいにあるか、という発問をもとに、マクドナルドが世界中に展開しており、それを通して世界中にアメリカの食文化が広まっていることに気づかせた。

ここからグループ活動に入り、展開部は大きく3つに分かれている。展開1では3カ国のマクドナルドのメニューを示して、どの国のメニューかを考えさせた。展開2ではメニュー上のハンバーガーが描かれたカードを使って、各国のメニューを比較させた。展開3では、各国の文化の特色を考えさせた。

そして終結では、現地の国の習慣や宗教などに合わせて文化変容が起きるといいうグローバル化の過程を説明した。



【授業の様子】



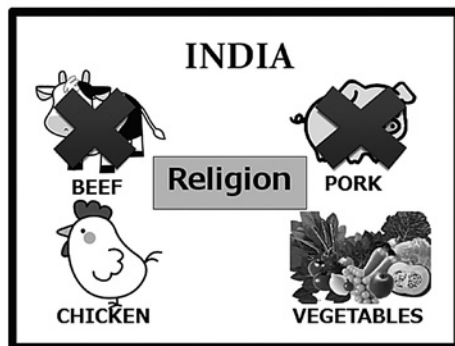
### 3.5 考察

授業の実際として、子どもたちはマクドナルドのメニュー表を使って、非常に興味深く学習活動に取り組んでいた。そこから得られた本授業の成果は以下の点である。

第一に、マクドナルドを教材として文化のグローバル化とグローカル化という授業が、アメリカでの授業として成立した点である。この授業は日本の中学校でも実践済みだが、マクドナルドの本場であるアメリカでこそ、むしろ自分たちの国の食文化が世界中に広がり、また、現地の文化に合わせて変容していたということに大きな驚きがあったようだ。

第二に、アメリカでの実際の授業を通して、視覚的に学ぶことの重要性が認識できた点である。今回の授業では自分の英語力を鑑みて、できる限り視覚的に理解できるような授業展開を考えていた。それは、マクドナルドのメニューといった具体的な教材と電子黒板及びパワーポイントを使った写真や図の提示である。まずメニュー表は、それと対応したハンバーガーのカードを用意して、子どもたちがメニュー表やカードを使って自分の考えを述べていたので、私自身もそうであったが、他の人に自身の考えを分かりやすく説明できるのだ。実際に子どもたちはカードを効果的に活用しながらグループ内で議論をしていた。さらに、抽象的な説明をするところでは、子どもたちがイメージしやすいような写真や図を積極的にスライドに提示しながら説明したので、子どもたちは私の英語を聴覚で聞くとともに、これらを通して視覚的に理解できるので、私が伝えたいことを理解してくれたと考える。

そして今回の授業は、日本とアメリカ、インドの3カ国のマクドナルドのメニューの比較を通して、各国のメニューの特色に気づくことが授業の中心であった。これはある程度達成できたと思うが、その理由や背景を私が説明してしまったので、これを子どもたちが主体的にその要因を考えていくことができる学習活動を取り入れれば、さらに子どもたちの認識が深まると考える。



【使用したスライド】

## 4 体験型教育実地研究における自己変容

### 4.1 教育観の変容

今回の海外教育実地研究を通じて私の教育観に関する変容は大きく3点である。

第一に、情報機器の充実が子どもたちの理解の向上に寄与するという点である。今回訪問した学校では、ほぼ全クラスに電子黒板が設置されており、教師がこれを効果的に活用していた。日本でも電子黒板が導入され始めてきたが、これを積極的に活用している日本の教師が果たしてどれほどいるだろうか。視覚的に分かるような写真や図を提示したり、インターネットにも接続しているので、この電子黒板の活用方法はますます多様なものになるだろうと感じた。

第二に、子どもたちをほめることの重要性を認識したということである。授業見学等を通じて、アメリカの教師は子どもたちを積極的にほめていたと感じた。日本の教師は、自分も含

め生徒たちをほめることを積極的にしているとは言えないだろう。しかし、アメリカの子どもが主体的、積極的に授業に参加しているのは、こういったことも影響しているのではないかと考える。

第三に、“子どもたちが学ぶこと”の重要性を再認識した点である。アメリカの教師が授業において最重要と考えていることは、子どもたち自身が主体的に学んでいくということではないかと感じた。これは指導案検討会及び現地での授業見学等を通じて、子どもが学べる学習活動に重点が置かれていたと、私が考えたためである。このことは、講義型の授業形式に終始しがちな私にとって、今後に向けた大きな改善点を見つけることができたと思う。

#### 4.2 自分自身についての変容

本研修に参加して自分が大きく変わったことは、「何事もやることによって始まり、そこから得られるものは大きなものである」ということを実感したことである。自分に苦手なことや不安なことには、自分から積極的に取り組んできたとは言えない私にとって、今回の経験は何事もチャレンジすることの大切さを改めて気づかせてくれ、今後の大きな糧となったと考える。

#### 4.3 グローバルマインドに関する変容

日本人は英語についてはある程度理解はしているものの、実際に英会話ができないとよく言われる。実際に私自身も同様であり、特に英会話が苦手であった。しかし、急速に国際化してきた現代において、日常的に海外の人々と英語で会話する日もそう遠くはないだろう。ここで重要なことは、国際交流や異文化体験等を通じて、実際に英語で会話するという、その第一歩を踏み込むことである。日本のこれからの国際理解教育においても、子どもたちが積極的に英語で会話をするという基本的ではあるが、非常に重要なこの活動を積極的に取り入れていくことが大切ではないかと考える。

### 5 おわりに

今回の研修にあたって、正直なところ初めは英語で本当に授業ができるのだろうか、と不安でいっぱいでした。しかし、先生方との指導案検討や助言、アメリカからわざわざ日本に来られた先生方との指導案検討や助言、さらに授業実施校でのティーチングアシスタントの先生との検討会や授業中の支援のおかげで、私は授業を楽しみながら行え、また授業後に得られた達成感も大きなものでした。



本研修で体験したことは、自分自身をさまざまな面で成長させてくれただけでなく、今後の私にとっての貴重な糧になったと言えます。

最後になりましたが、私がこの貴重な経験をすることができたのは、本研修を計画実施して下さい、実際に現地でも細やかな支援をして下さった GPSC の関係者の皆様、Elmhurst Elementary School でさまざまな支援をしてくださった Perry 先生をはじめとする職員の皆様、ノースカロライナでさまざまな形で盛大な歓迎をして下さった関係者の皆様に、心から感謝申し上げます。